

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272100268		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム悠心彩ひのき		
所在地	島根県鹿足郡津和野町河村506-3		
自己評価作成日	平成25年3月4日	評価結果市町村受理日	平成25年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、季節を感じながら、ゆったりと過ごしていただけます。また、広い畑を有しており、植え付けや収穫の喜びを味わうと共に、新鮮な野菜を食して頂いております。
ご家族と共に楽しい時間を過ごして頂けるような場所づくりや、入居者様の希望により故郷訪問や親戚訪問をし、馴染みの関係の継続を支援しています。
24年度は地域交流を主な目標とし取り組み、行事へも積極的に参加しました。今後も引き続き取り組んでいきたいと思ひます。
馴染みの方々が気軽に来られ、一緒にゆっくり時間を過ごして頂ける場所になる事が私達の願ひです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員玄関、事務所、各棟に掲示し、意識をもって仕事に臨むようにしている。スタッフ研修で理念について話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の花見、公民館祭りへの参加。保育園との交流。中学校文化祭見学。手作りの雑巾を保育園と公民館へ寄贈した。また地域の公園の清掃活動を行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長に情報を提供をしている。施設発行の便りを地域に回覧し、様子を知らせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況報告、取り組み等について報告をし、意見を頂き、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	窓口担当者の方はもとより、運営推進会議に出席して頂くことにより、事業所の実情や取り組みを知って頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関等は自由に入出入りが出来る環境であり、職員が連携をとり、見守りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へのアンケートに基づき、注意点の把握や意見交換し日々のケアに繋げている。施設外講習への参加がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に参加している。参加者はスタッフ研修で報告し、共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、又は契約時に話をする時間を設け現状の把握に努めている。説明を行いご家族の納得・理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換に基づき、要望等をスタッフ間で共有し、話し合いの結果をご家族に返事をすると共に実施に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ研修において、毎月アンケートにより、スタッフの意見や提案を聞き、ディスカッションをしている。 代表者に意見を伝える方法として意見箱が設置してある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、やりがいのある職場作りをめざすと共に給与水準の向上を図り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育は教育計画に基づき実施している。 現任教育はスタッフ研修及び外部への研修の情報提供により自己啓発をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム交流会が年間2回実施された。 3グループホーム交流研修実施により、スタッフ4名の訪問5名の受け入れを実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅やかかりつけ医、本人、ご家族より情報収集し、又面接時ゆっくり時間をかけて傾聴している。サービス提供開始時に不安が無い様スタッフ間で情報を共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談援助として、面接、電話での対応に応じている。個々に応じて状況の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	おかれている状況、気持ちを傾聴し相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、食事の下準備、調理の味見等一緒にしている。節分には巻き寿司作り、彼岸のおはぎ作りを一緒に行った。 おやつ作りも一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各月毎、近況報告の便りを家族あてに送付している。必要に応じて電話連絡をし、面会時には家族の希望等を聞き情報の交換をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問、馴染みの美容院でカットなど。誕生会への家族の参加。地域交流や面会時にはゆっくり、ふれあいが出来る場所の設定をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の希望を取り入れながら、みんなで過ごす時間を作っている。食事でも話をしながら、ゆっくり出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したあとの相談や支援の事例はないが、経過の様子を兼ね面会に伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の要望や気づきの把握に努めモニタリングによりサービス提供を検討している。又、ご家族様には近況報告と共に希望等を伺っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のアセスメント等を把握しながら、先入観をもたないように努めながら介護にあたっている。また、会話をしていく中で気づいた事は、スタッフで共有するように勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のリズムを把握し小さな事も見逃さず発見気づきに努め全体をみるよう観察し細めに記録し看護師との連携を図り支援させて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度担当者がモニタリングをし、それについて話し合い、必要時にはご家族に相談しながら行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や介護記録、ケース記録やスタッフの申し送りを活用し日々の状態を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠隔地にお住まいの家族の来所時、入居者の部屋に宿泊して頂き、一緒にいる時間を過ごしていただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多くのボランティアに来ていただいた。自治会行事への参加をした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診がある。家族による受診希望については、柔軟な対応、支援をしている。(眼科、整形外科等)必要時には主治医と連絡がとれる体制を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化は看護師に報告、相談し指示をうけ対応をしている。また、24時間連絡可能であり、相談体制は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供表を作成し渡している。退院時には病院からの看護添書により、情報交換に努めている。入院中は面会にも伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての、意向は確認出来ている。後見人や主治医とも連絡を密にし、支援している。ケースごとに話し合い、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については看護師よりスタッフ研修で指導があり対応の流れの再確認をした。救急救命訓練は全員実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、緊急対応訓練参加、緊急連絡訓練、救急救命訓練を実施した。また、スタッフによる避難のシミュレーションの実施、地域の人の避難訓練の参加もあり、近隣連絡先として緊急連絡網にも入ってもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の扉を開けっ放しにしない。入る時はノックをするなど、個人の場と共用の場の区別をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の個々にあった言葉かけをすることにより会話を聞きだし、意思の確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活を大切にし、居室で過ごされたり、ホールで雑談したり、お天気の良い日は散歩に出たり希望を聞きながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色々な服を楽しんで頂けるように、洗濯したものを奥に収納するようにし、手前から着ていただくようにしている。 お化粧品等も出来るようお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が同席し、声かけや雑談をしながら、食事を楽しんで頂いている 片付けやテーブル拭きなども職員と共にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の大きさを個人個人の身体状況に合わせて、対応している。水分は充分摂れるよう、お好みも考慮しながら、飲んで頂いている。 摂取量については、毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の身体状況に合わせて、見極めながら声掛けや介助の支援をしている。意思疎通が出来ず行えない時もあるが、毎食後全員を基本に行っている。必要時は歯科受診できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意の無い方については、時間を見はからって声かけ、案内をいている。夜間はポータブルトイレの使用もあり、応じた対応をしている。排便表により、パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るように、起床時に水を飲んで頂く事が習慣となっている。記録により、リズムが把握できるので、早い対応が出来る。身体を動かすなど取り組みをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き体調も見ながら、案内をしている。不穩により、タイミングを逃す時もあるが、無理の無いよう気持ちの配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調やご希望に応じて、居室や和室で休んで頂いている。エアコンや加湿器などを使用し温度や湿度調節にも勤めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師があたっている。服薬支援は介護者によるが薬の説明書はファイルしてあり、いつでも確認が出来るようになっている。副作用などの注意点は看護師より指導がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の作業でモップ掛け、テーブル拭き、食事の片付け、洗濯物干し、畳み、は日常的に行っている。大正琴を演奏される人、合わせて歌われる人と、一緒に楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自治会の行事に参加したり、施設周りの散歩や希望により自宅訪問、ご家族との外出、花見ドライブ、海岸ヘドライブ、紅葉ドライブなど実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人もいれば、いない人いる。必需品は家族により準備されているが、ご希望があれば、買い物にも対応できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援やご家族、友人からの電話もあり、ご本人が電話をされる事もある。又、発信依頼の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには季節の花を飾り、ホールには入居者の作品を掲示し楽しんで頂いている。食事時にはBGMを流し、落ち着いた雰囲気になっている。又、季節の応じて室温調節、毎日、時間毎に換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓でお茶を飲まれたり、新聞を読んだり、ソファで他者と雑談をされる人、テレビを見られる人もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しまれた家具や思い出の写真など飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札が掛けてあり居室は身体状況に合わせてベッドの位置や畳での就床、ダンスには中身を表示し分かり易いように工夫している。洗濯物干しなど家事を行う場合は安全な場所に配置し用具の提供をしている。		